

人のうごき

令和2年8月届出分を掲載(希望者のみ)

おたんじょう

佐々木 冴奈^{さな}ちゃん (歩舞・彩加) 南大通6

ごけっこん

田中 英美^{さな}さん 高橋 望優^{のぞみ}さん 北2の2

おくやみ

林 弘之 ^{ひろゆき} さん	78歳	上築
亀谷 稔 ^{のぶ} さん	80歳	港町
福田 喜代美 ^{きよみ} さん	86歳	栄町
岩佐 ヨシエ ^{よしえ} さん	97歳	栄町
吉中 千代子 ^{ちよこ} さん	89歳	栄町
九谷 リツ ^{りつ} さん	99歳	栄町
菅原 秀子 ^{ひでこ} さん	78歳	幸町
佐澤 鉄治郎 ^{てつじろ} さん	86歳	焼尻
藤井 幸江 ^{ゆきえ} さん	94歳	栄町
丹野 健一 ^{けんいち} さん	71歳	栄町

人口と世帯数(8月末)

人口	6,713人	(-13)
男	3,233人	(-4)
女	3,480人	(-9)
世帯数	3,533世帯	(-4)

()は前月比

※広報はぼろ8月号の訂正について

広報はぼろ8月号の次の箇所に誤りがありました。お詫び申し上げますとともに次のとおり訂正します。

○3ページの図解「必ず取り組みましょう あなたがとるべき避難行動は?」内の一部表記

(誤) 火災の危険があるので原則として※2、自宅の外に避難が必要です。

(正) 災害の危険があるので原則として※2、自宅の外に避難が必要です。

○17ページの「北海道立羽幌病院からのお知らせ」内の一部表記

(誤) 札幌医大 木村教授

(正) 砂川市立病院 木村医師



Dr. 佐々尾の健康カルテ

新型コロナウイルスの報道で、PCR検査を「どんどん積極的に症状のない人にも行うべき」「全員に行くことは意味がない」・・・などと、専門家の中で意見が分かれ、一般の方にはわかりにくく混乱を招きます。おそらく「検査なんてどんどんやればいいのに」と思われているかもしれません。

医療機関で行われる検査には様々ありますが、大前提として「検査は万能ではない」ということです。病気があっても「陰性」となったり(「偽陰性」)、病気がなくても「陽性」となることもあります(「偽陽性」)。それは検査の特性に大きく左右されるためです。検査の特性を表す重要な指標として、「感度(病気がある人が検査陽性になる確率)」「特異度(病気がない人が検査陰性になる確率)」があります。

身近なインフルエンザの検査を例にすると、「感度」が70%、「特異度」が99%とされています。羽幌町民6700人のうち10人がインフルエンザの状況で行った場合、どうなるでしょうか・・・。例1で示すように、検査で陽性になる方は74人いますが、実際に感染があるのは7人だけになります。つまり、「陽性」が正しく感染を見つける確率は、なんと9%しかなく、91%が間違われています。そこで検査を活かすためには、疑わしい人に絞って行うことが必要なのです。例えば町民のうち100人が疑わしいとしましょう。すると、検査陽性8人のうち、7人は感染していることになり、正しく評価できるようになります。一つ注意が必要なのは、陰性であっても感染している方がいることです。ですから、検査で陰性が確認されたから問題ないとは言えないのです。なお、新型コロナウイルス検査もインフルエンザ検査と同等か、それよりも感度が下がる(30~70%)とされています。

医療機関ではこのような検査の特性を考慮しながら検査していることを御理解ください。

例1) 町民全員に検査をすると・・・

		インフルエンザ		合計
		感染あり	感染なし	
検査	陽性	7	67	74
	陰性	3	6623	6626
合計		10	6690	6700

例2) 症状のある人に絞って検査をすると・・・

		インフルエンザ		合計
		感染あり	感染なし	
検査	陽性	7	1	8
	陰性	3	89	92
合計		10	90	100

(北海道立羽幌病院 副院長 佐々尾 航 医師)

